

愛知教育大学 2016 年度卒業論文概要 (2017 年 3 月 31 日)

## 海拔ゼロメートル地帯における自主防災組織の活動

—愛知県津島市の自主防災会を事例に—

石田聖典 (地理学専修)

—目 次—

### I はじめに

1. 研究の背景と目的
2. 従来の研究

### II 自主防災組織の概観と研究対象地域の水害リスク

1. 自主防災組織の全国の特徴
2. 海部地域の概観
3. 愛知県津島市の概観

### III 行政による水害対策

1. ハード対策
2. ソフト対策
  - 1) 愛知県
  - 2) 津島市

### IV 自主防災会の活動力と水害リスク

1. 津島市における水害リスクの把握
2. 自主防災会の「活動力」評価
  - 1) 蛭間校区自主防災会
  - 2) 神守小学校区自主防災会
  - 3) 高台寺小学校区自主防災会
  - 4) 東小学校自主防災会
  - 5) 神島田小学校区コミュニティ推進協議会防災安全部会
  - 6) 北校区自主防災会
  - 7) 南小学校区コミュニティ推進協議会自主防災部会
  - 8) 西小学校区コミュニティ推進協議会自主防災部会
3. 水害リスクと活動力の比較
4. 防災訓練参加者

### V おわりに

— 概 要 —

本研究は、水害に対するソフト面からの防災対策として近年その重要性が叫ばれる「自主防災組織」に着目し、自主防災組織による防災活動の地域的特徴と、その活動が地域住民にもたらす効果や課題を明らかにすることを目的とした。

本研究では、愛知県の中なかでも「海拔ゼロメートル地帯」が広がる濃尾平野中央部に位置する海部地域の津島市を事例に（図 1）、自主防災会（津島市における自主防災組織の呼称）の「活動力」をアンケート調査から分析するとともに、各自主防災会が基盤をおく地区の「水害リスク評価」も合わせて考察することで、自主防災活動の抱える課題を明らかにするよう試みた。なお、津島市では小学校区単位のみで自主防災組織が結成されており、全国的にみても珍しい事例である。

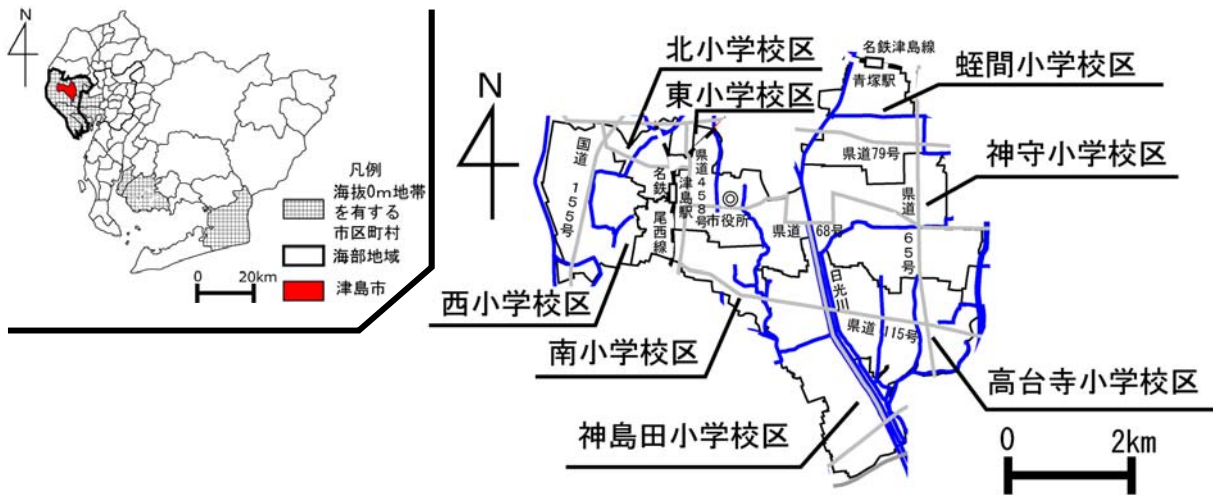


図 1 津島市の概観と小学校区図

（東海三県地盤沈下調査会（2016）『平成 26 年における濃尾平野の地盤沈下の状況』（東海三県地盤沈下調査会）より作成）

まず、津島市が 2016 年に公開した『津島市防災ハザードマップ』の「各小学校区風水害編」に記載された情報をもとに、各小学校区における「水害リスク」を①地形条件、②伊勢湾台風時の浸水状況、③日光川の氾濫予想、④避難経路、⑤浸水想定箇所の 5 点から総合的に評価した（表 1）。その結果、日光川に接している高台寺・神島田・東の 3 校区が最も水害リスクが高くなっていると評価できた。同じく日光川左岸に接している蛭間・神守の 2 校区は「伊勢湾台風時の浸水状況」のリスク項目が低くなっているため、総合評価にやや差が出る結果となった。

次に、各小学校区単位で組織されている津島市の 8 つの自主防災会の「活動力」を①自主防災会組織力（自主防災会の組織体制・構成）、②防災訓練力（日頃の防災活動・訓練）、③防災備品備蓄力（防災備品の備蓄程度）、④災害時対応力（発災時の自主防災会の対応能力）、⑤地域情報把握力（地域の防災状況をどの程度把握しているのか）の 5 つの項目に分けて評価するアンケート調査を行った。アンケート調査票は、直接面接方式で各自主防災会の会

表 1 津島市 8 校区の水害リスク

校区	地形条件	伊勢湾台風時の浸水状況	日光川の氾濫予想	避難経路	浸水想定箇所	総合評価
蛭間小学校区	☆☆	☆	☆☆☆	☆☆	☆	☆☆
神守小学校区	☆☆	☆	☆☆☆	☆☆☆	なし	☆☆
高台寺小学校区	☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆
東小学校区	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆
神島田小学校区	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆
北小学校区	☆☆	☆☆	☆	☆☆	☆☆	☆☆
南小学校区	☆☆	☆☆	☆	☆☆	☆☆	☆☆
西小学校区	☆☆	浸水なし	浸水なし	☆	☆☆☆	☆☆

注：☆の数は水害リスクの危険度を表しており、数が多いほど水害リスクが高い校区であることを意味する。

表 2 津島市における 8 つの自主防災会の活動力評価

自主防災会	自主防災会組織力	防災訓練力	防災備品備蓄力	災害時対応力	地域情報把握力	総合活動力
蛭間校区自主防災会	3.97	2.5	1.98	1.66	4.59	14.7
神守小学校区自主防災会	1.82	2.98	2.64	4.66	4.17	16.27
高台寺小学校区自主防災会	3.28	2.39	0.99	0.33	2.92	9.91
東小学校区自主防災会	2.79	3.68	1.98	3	3.34	14.79
神島田小学校区コミュニティ推進協議会防災安全部会	3.9	2.14	3.3	1.66	2.92	13.92
北校区自主防災会	4.17	3.45	2.31	4	4.17	18.1
南小学校区コミュニティ推進協議会自主防災部会	4.17	2.86	2.64	2.66	1.67	14
西小学校区コミュニティ推進協議会自主防災部会	3.97	1.43	0.99	0.66	0.84	7.89

(自主防災会へのアンケート調査より作成)

長（蛭間校区のみ事務局長）に記入してもらい、その結果を項目ごとに 5 点満点で数値化した（表 2）。

そして、各小学校区の「水害リスク」評価（表 1）と、自主防災会の「活動力」評価（表 2）とのあいだにいかなる関係性があるのかを考察したところ、水害リスクの地域の特徴が必ずしも自主防災会の活動力と相関しているわけではないことが明らかとなった。たとえば、水害リスクが極めて高い高台寺小学校区の自主防災会は、避難等に関するマニュアルが策定されていないことや防災用資機材の使用方法を把握している役員が 30%未満であることから、災害時対応力が足りていない。防災備品に関しても予算不足が影響している。ほかの 3 項目も高い値となっているものがなく、水害リスクが非常に高い校区である事実に対して、自主防災会の活動力が見合っていないといえる。一方、同様に水害リスクが高い東小学校区では自主防災会に 5 つの項目で顕著に低い値がなく、自主防災会が有効に機能すれば被害の軽減が期待できることが分かった。他方、北小学校区は水害リスクがそれほど高くないにもかかわらず、防災備品備蓄力を除いて「活動力」評価が高い値となっており、防災活動は盛んである。高台寺小学校区自主防災会とは反対に、水害に対する被害軽減機能が

なり期待できる。

最後に、自主防災会の活動が地域住民にもたらす効果について明らかにするため、蛭間小学校区における喜多神団地・ラドニー青塚の2町内会合同の防災訓練（2016年11月27日）の場で、参加者32人にアンケート調査を行った。防災訓練に参加した動機（複数回答可）をみると、「町内会の行事」（18人）や「町内会の役員」（17人）を参加理由に挙げる者が多く（図2-1）、自発的な動機による訓練参加者は多くはなかったが、自らが参加している防災訓練が「非常に有効」（18人）ないしは「少し有効」（10人）と回答する者も大多数を占めた（図2-2）。

以上の結果から、訓練参加者に自発的な参加動機はあまりみられなかったものの、一様に訓練内容を高く評価していることが明らかになった。つまり、やり方の工夫次第で防災訓練は地域住民の防災意識を上げ、ひいては活動力の低い校区であっても自主防災活動力の向上に寄与しうることが示唆された。

課題をあげるとすれば、津島市では小学校区単位で自主防災会が設けられているが、全国的にみれば町内会・自治会単位の自主防災組織が大半を占めており、津島市は極めて珍しい形態の自主防災活動を展開している自治体である。したがって今後は、海部地域内の町内会・自治会単位で結成されている自主防災組織についても調査し、小学校区単位の自主防災組織と町内会・自治会単位で結成されている自主防災組織との差異を比較することができれば、それぞれの形態の違いにより生じる活動力の地域差が浮き彫りにできよう。

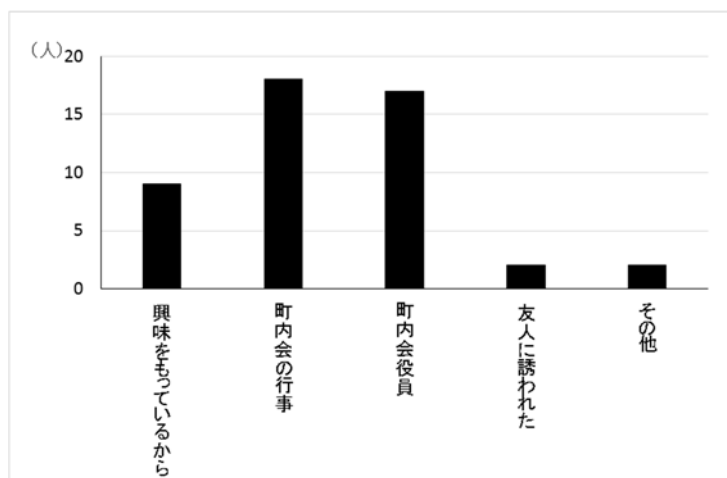


図 2-1 防災訓練参加者の参加動機

(防災訓練参加者へのアンケート調査より作成)

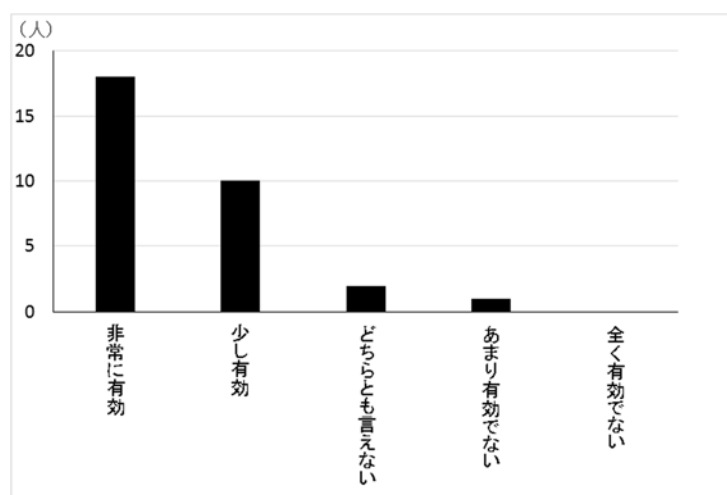


図 2-2 発災時の防災訓練の有効度

(防災訓練参加者へのアンケート調査より作成)

論文の問い合わせ先：

指導教官 阿部亮吾（地域社会システム講座 准教授）

[aberyogo@aecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:aberyogo@aecc.aichi-edu.ac.jp)